「日本の医療と医薬品等の未来を考える会」発足式リポート

崩壊の危機にある日本の医療のため広く議論し情報発信していく会に

超高齢社会を迎え、さまざまな課題を抱える日本の医療。諸課題をどう解決し、医療を発展させていくか。広く議論し、その結果を情報発信していこうと、国会議員や医療人、医療関連企業が集まった「日本の医療と医薬品等の未来を考える会」が誕生し、4月27日に衆議院第一議員会館で発足式を開いた。同会国会議員団会長の原田義昭・自民党衆議院議員をはじめとする5人の国会議員、医療界からは横倉義武・日本医師会会長、日本医学会・髙久史麿会長らの重鎮も顔をそろえ、約80人が参加した。

基盤の脆弱な日本の医療を崩壊から救う

「日本の医療は世界のトップレベルにありますが、それは医療現場で献身的に働く医師、看護師、医療従事者によって支えられています。つまり、大変脆弱な基盤の上に乗っているといえます。超高齢社会を迎え、このままでは日本の医療が崩壊することは明らかです」

発足式の冒頭、会の代表を務める尾尻佳津典・集中出版代表はこう語り始めた。

「ここで医療を大きく変えていくためにも、幅広い議論が必要ですし、自由闊達（かったつ）に意見を出し合うことが肝要です。そして、その結果を広く情報発信していきたいと考えています。国会議員の先生方には、この会で議論した内容を、国政に、関係省庁に、ぜひ届けていただきたい。期待しています」

広く議論し、それを政治や行政に反映させていく――。ぜひ実現させてほしいものだ。

「日本の医療と医薬品等の未来を考える会」代表
集中出版株式会社代表
尾尻 佳津典

難しい時代を乗り切るために愚直に勉強する

医療界を代表して日医の横倉義武会長が、同会国会議員団を代表して原田義昭・自民党衆院議員（元文部科学副大臣、元厚生政務次官）が、それぞれスピーチを行った。

横倉氏は「わが国の医療は大きな曲がり角にきております」と話し始め、三つの問題点を指摘した。一つは少子高齢化が進んできたこと。そうした状況下で、10～20年にわたって、どのような医療を提供できるのかを考えなければいけない。

二つ目は、医師の地域偏在と診療科の偏在の問題である。これを早急に解決しなければいけない。三つ目は、医療の高度化に伴う医療費の増大をどうするかという問題である。新しい免疫治療薬である「オプジーボ」は悪性黒色腫の薬だったが、肺がんにも効果があるということで適応拡大となり、これが保険収載された。国民にとって朗報だとは思うが、このままでは国家財政を破綻させるのではないかともいわれている。財政的にどう考えていくかという問題も、大きな政治課題につながる話だろう。

「日本の医療は解決すべき問題が多く、従来の考えを大きく変えざるを得ない状況も出てきます。そうしたときに忘れてならないのは、我々の願いは国民の健康な生活を守る、ということです。そのために全力を尽くしていきたい」（横倉氏）

また、原田氏は同会誕生のいきさつについて話した。背景にあるのは日本の現状だ。少子高齢化に加え、人口が減り始めた現在の日本は、近代以降初めての深刻な時期を迎えている、と原田氏。これまでのような右肩上がりではない時代を迎え、一方では途上国が豊かになってきている状況下で、日本の未来をどう形成していくのか。医療界にとっても、大事な時期を迎えているとの認識を示した。

医療に関する問題を包括的に見る勉強会も開かれた

長年の付き合いのある尾尻代表から「医療の分野でいろいろな問題が生じている。それを掘り下げて議論する会を作りたい。そして、その議論を政治や行政に確実に反映させたい」という相談があった。それが同会誕生のきっかけという。

日本医師会会長
横倉義武氏

「日本の医療と医薬品等の未来を考える会」
国会議員団会長
自民党衆議院議員
原田義昭氏

「私も、2025年問題（団塊の世代がいよいよ後期高齢者となっていく）もあり、今のうちにしっかり議論しておくことは大切だと思い、尾尻氏と話し合い、とにかく愚直に勉強する会を作ろうじゃないか、ということになりました。お集まりいただいた皆様の、自由闊達な議論を期待しています。私たち国会議員はその議論をしっかり受け止め、課題や問題点について党内においてきちんと発言し、国会の中や厚労省に働き掛けて制度や政策として実現していきたいと思います。また、大事なことについては、臆することなく総理官邸にも出向いて訴えなければならない、と考えています」（原田氏）

国会議員団の末松信介・自民党参院議員（同党幹事長代理）、羽生田俊・同党参院議員（医師）、島村大・同党参院議員（歯科医師）、大隈和英・同党衆院議員（医師）も一言ずつあいさつした。

二極化が進むアジアの医療に日本の医療が埋没する危機

医療に関する問題を大局的に見た勉強会も開かれ、多摩大学大学院の真野俊樹教授による「問題点の整理と提起」と題する講演が行われた。真野氏はあまりにも多い問題点を、二つの視点で整理した。まず、問題をマクロの医療保険制度、セミマクロの業界構造、ミクロの提供体制に分けた。これまであまり議論されてこなかった業界構造の視点から日本の医療を見ると、日本の医療機関は集約化が遅れている。小さい病院が多いのが日本の特徴で、国際標準と比較しても日本は特殊な状況にある。

二つ目の視点として、問題を思想的対立軸で整理した。医療における産業的側面と社会保障的側面、大きな政府か小さな政府かといった具合だ。新しい医療技術が生み出されることで、医療の産業的側面が大きくなっている。いかに産業と社会保障を両立させるかが問題になっていく。

多摩大学大学院教授
同大学医療・介護ソリューション研究所所長
真野俊樹氏

人の移動も貿易も近距離が中心なので、医療の国際化もアジアにおける日本の医療を考える必要がある。アジアの医療は、社会保障よりも産業を重視し、二極化が進んでいる。非常に高度な病院と、レベルの低い病院も存在する。日本の病院は全体的にレベルが高いが、アジアの高レベルの病院が産業的視点でどんどん新しい医療機器を購入したりすると、そういった病院がトップレベルになり、日本の病院はその下のレベルに取り残される危険性もある。そうならないためにも、産業的視点も大切である、と真野氏は強調した。

勉強会後の懇親会で参加者たちの間で取り交わされた活発な意見交換

勉強会の終了後、衆議院第一議員会館内で場所を移し、立食形式の懇親会を開いた。勉強会に引き続き、多くのメンバーが参加。国会議員、医療人、医療関連企業のトップや役員は親睦を深める一方、会場のあちらこちらで医療に関する問題について熱い意見交換を行っていた。

懇親会で乾杯のあいさつをする
原田義昭・衆院議員

日本医学会の髙久史麿会長も参加

北村滋郎・日本安全服用協会会長(左)と
綿引一・翔友会理事長

福本敏・東北大学大学院教授(左)
伴寿一・富士フイルム再生医療事業推進室長

瀬戸皖一・総合南東北病院東
BNCT研究センター長(左)と
藤木龍輔・恵仁会理事長

左から河野博行・東邦ホールディングス会長、
エスシーグループの皿澤宏章副社長、
皿澤康孝社長

田中慎二・ソフトマックス上級副社長(左)と
箕浦公人・ニプロ取締役商品企画本部長

神野正博・日本病院団体協議会議長(左)と
加納繁照・日本医療法人協会会長

篠原裕希・篠原湘南クリニックグループ
理事長(左)と末松信介・参院議員

牧田進・アポロン社長(左)と
木村昌史・アポロン営業本部長

左から堤治・山王病院院長、
井手口直子・帝京平成大学薬学部教授、
北村唯一・東京大学名誉教授

草野敏臣・東京ミッドタウン
クリニック理事長(左)と土屋了介・神奈川
県立病院機構理事長

左から尾尻佳津典・集中出版代表、
福本敏・東北大学大学院教授、
松原正裕・松原クリニック院長

岩阪道明・健康づくり財団代表理事(左)と
渥美和彦・日本統合医療学会名誉理事長

左から尾身茂・地域医療機能推進機構理事長、
明石勝也・聖マリアンナ医科大学理事長、
大隈和英・衆院議員

赤尾敬子・健康づくり財団理事長(左)と
末松信介・参院議員

箕浦公人・ニプロ取締役商品企画本部長(左)と
坂田明・明豊ファシリティワークス社長(右)

盛本修司・モリモト医薬社長(左)と
中村哲也・獨協医科大学教授

藤木龍輔・恵仁会理事長(左)と
真野俊樹・多摩大学大学院教授

河野博行・東邦ホールディングス会長(左)と
原田義昭・衆院議員

渥美和彦・日本統合医療学会名誉理事長(中)と
白澤卓二・白澤抗加齢医学研究所長(右)ら